

平成 30 年 1 月 2 9 日

# 南 の 風 2 8 8

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

Bリーグが熱いです。組織及びそれぞれのチームが経営努力し、バスケットボールを愛する観客の動員と全カプレイに力を注いだ結果だと思えます。

第 1 1 節、共に連勝を続けていた川崎ブレイブサンダース vs 栃木ブレックスのゲームを分析します。まず両チームの構成メンバーです。

川崎は、お馴染み 2 2 番ニック・ファジーカス選手のポストプレイやロングショット、3 1 番シェーン・エドワーズ選手のセンタープレイ、リバウンド、そして 2 1 番のバーノン・マクリン選手のセンタープレイとインサイド陣が充実しています。またアウトサイドは、7 番篠山竜青選手 (PG)、0 番藤井祐真選手 (PG/SG)、1 4 番辻直人選手 (SG) で固めています。さらに、3 3 番長谷川技選手 (SF) が 3P シュートにも持ち味を発揮しています。

川崎の強さは、ファジーカス選手が日本に帰化し日本国籍を取得したため、オンザコートに外国籍の選手を二人配置することができることです。ビッグラインアップと呼ばれています。2m以上が 3 人いることは、他チームにとってたいへん厄介な布陣となります。

栃木は、現在 0 番の田臥勇太選手 (PG)、1 2 番アンドリュー・ネイミック選手 (C) が、故障のため戦列を離れていることが不安材料です。

栃木は、2 2 番ライアン・ロスター選手 (C/PF)、ジェフ・ギブス選手 (PF/C) のポストプレイやリバウンドショットや外からのカットインがフロント陣の強みです。そして今年度は、アウトサイド陣の充実ぶりが目立ちます。1 8 番鷗誠司選手 (PG)、1 3 番渡邊裕規選手 (PG) は、ポイントガードの仕事だけでなく、カットインから 3P シュートまでカバーしています。9 番遠藤祐亮選手 (SG) や 3 0 番山崎稜選手 (SG) も二人に勝るとも劣らない働きをしています。

次に両チームの戦術です。川崎は復帰したファジーカス選手がメインスコアラー (ポストプレイ、外角シュート) ですが、1 1 月に入りエドワーズ選手との連携、外へのキックアウトから辻選手、長谷川選手、藤井選手の 3P シュートも効果的になりました。またピック&ロールからの逆サイドへの速い合わせも、相手に的を絞らせない効果があります。ディフェンスもディフェンスリバウンドの安定した確保や、機を見て行うチェンジングディフェンス (ゾーンをミックスする) が功を奏しています。

一方栃木は、今シーズンディフェンスが堅実です。一人ひとりのモチベーションの高さと、相手のオフェンスの裏をかくチェンジングディフェンスが特徴的です。中でもオールコートプレスディフェンスを巧みに使い相手のミスを誘ったり、運びに時間を費やせたりする作戦が際立っています。もう一つは、各選手のシュート決定率の高さです。鷗選手、遠藤選手、渡邊選手の 3P シュートを含めた確率は他チームの脅威です。そして忘れてはいけないのが、ロスター選手のロングショットと鋭いカットインです。ここ一番のショットで度々チームを救っています。さらにギブス選手のリバウンド力とペイントでの身体張った 1 対 1 の強さはリーグでも指折りです。彼は 1 8 8 cm (公称) ですが、実際は 1 8 5 cm ないと思います。しかし、身体の幅の使い方とタイミングのよいリバウンドは見事という他ありません。